

単元まるごと計画「町の道案内をしよう」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：学校のまわりにあるものを We have で紹介し、地図を見ながら目的地までの行き方を Go straight. / Turn right [left]. で案内し合って、おすすめの場所を伝え合う。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	What do you have in your town? / We have / Where is the ...? / Go straight. / Turn right [left]. などの表現について理解しているとともに、町にあるものや目的地までの行き方を伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	おたがいの町のよさを知り合うために、町にあるものや目的地までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	おたがいの町のよさを知り合うために、町にあるものや目的地までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生の町しょうかいを聞く（We have に出会う）	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	町の施設の言い方練習（絵カード）＋町ことばチェーン（活動1）	Small Talk①話題1（先生の町のお気に入り）	記録なし
3	YT	道案内の表現に出会う（Go straight. / Turn right [left].）→ きくワークで先生の案内を指でたどる	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	Where is the ...? のやり取り＋書きWS①	Small Talk①話題2（おすすめへの行き方）	記録なし
5	EC	町マップで道案内ペア練習（活動2）＋書きWS②（おわり5分）	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知技）
6	EC	道案内ツアー本番①（グループで役割ことうたい）→中間指導	Small Talk②話題1（先生の案内を止めてみよう）	◎ 行動観察（思判表）
7	OH	世界の町のようすを聞く（教科書OH）＋ツアー本番②→おわりにおすすめマップ（活動3）で町じまんを1枚に	Small Talk②話題2（学校のまわりのおすすめ）	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（道案内）＋単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知技・思判表）＋振り返りカード（態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に道案内の型）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 町ことばチェーン（第2時）は3回戦まで（記録らんも3回分。つづきは朝の時間や雨の日の予備に回せる）
- 2. 道案内ペア練習（第5時）は1人2分厳守。往復1回ずつでやめる（延ばすと本番①が消える）
- 3. おすすめマップ（活動3）の絵は3つ→1つでよい。おすすめが1つ決まっていれば、第8時の最後の質問には答えられる
- 4. 書きワークシート②・地図の色ぬり・自分の町マップづくりは朝学習か宿題へ（この単元で書くことが目的の紙はワーク①のほう）

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ キーフレーズポスター（第1時に黒板横へ貼り、単元のあいだ貼りっぱなし）
- ☐ 町マップ＝活動シート2（人数分）※拡大コピー1枚を黒板に貼ると全体指導が速い
- ☐ 活動シート1～3・きくワーク・書きワークシート①②（使う時間に人数分）
- ☐ right / left の矢印カード（黒板の左右のはしに貼っておく）
- ☐ 振り返りカード（1人1枚・単元を通して同じ紙／第1時に配る）
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）／ALT打ち合わせシートは1週間前までに

配慮が必要な子へ

- ・「町には何もない」と言う子のために、学校・公園・コンビニ・お寺など「どの町にもあるもの」を先生が先に板書しておく（町の大きさは評価に無関係だと最初に宣言する）
- ・地図は架空の町のものだけを使う。自分の家の場所は言わせない・書かせない（個人情報を守る鉄則）
- ・right / left がとっさに出ない子が多い。机の右上に right の紙を貼る、手を挙げて確かめてから言う、を認める
- ・道案内の答えは英語の施設名でも地図の番号（1～9）でもよい。伝えることを最優先にする

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・この単元の地雷は「町の格差」。都会と田舎、引っ越してきたばかりの子——「自分の町」ではなく「学校のまわり」に統一すると全員が同じ土俵に立てる
- ・道案内は「聞き手の指」を見て話す活動。地図を指でたどらせると、ことばが足りない瞬間が先生にも子どもにも見える。だから Stop! を最初から正式なことばとして教える
- ・第6時の中間指導では「You can see it on your left. まで言えた子」ではなく「相手の指を見て Stop! と言えた子」を取り上げる（相手意識のほうが先に育てたい）